



SDGs見える化で「強くて優しい」世界へ

創業間もない当社の存在意義を、創業者である私自身の存在意義を通して述べてみます。

幼少の頃、ヒーローが世界を救うという漫画の中で「宇宙船・地球号」が安泰ではないらしいことを知り、自分もいつか世界を救うときが来るのかもしれない、なんて大それたことを思っていました。

高校生の頃、クラスメイトたちが真面目に進路を決めていくなか、自分はどんな大人になるのか、自分の存在意義は何なのかを考える機会がありました。ぼんやりと世界を救う仕事がしたいと思い、その頃見た映画の中で宇宙物理学者が世界を救っていたことから、大学は物理学科に入学しました。大学に入り少しだけ広い世界を知った私は、縁あって友人達と学生起業することになりました。世界を救うベンチャー企業みたいなものがあるかもしれないと思っていたのです。その後の10数年は激動のうちに過ぎ、環境・CSR領域で私は2度の事業売却の成功と、1度の事業撤退を経験しました。

これらの経験を通し、時代の変化と、その過程で生まれる軋轢を目の当たりにしました。社会・環境貢献は「物好き」がやる世界から、SDGsなどがビジネスや生活の表舞台に登場する世界へ。「利」（経済利益）を一元的に追求する世界から、「義」（社会・環境利益）をも多元的に追求する「義利合一」の世界へ。これらは、資本主義の限界に気づいた人々の覚醒による、ある種のルールチェンジだと私は理解しています。収益力が強ければ足元では勝てますが、人や

地球に優しくなければ中長期的に生き残り、繁栄することはできないのです。「強く、かつ優しい」組織や人がこれからの世界のリーダーになるでしょう。

しかし、足元では多くの組織で軋轢が生まれています。経済利益だけを求めてはいけないのか？ 社会・環境利益は必要なのか？ それは「義」と「利」の対立であり、短期目線の人々と中期目線の人々との分断でもあると考えます。こうした対立と分断は、両者を繋ぐ「通訳」が圧倒的に足りていないのが主因ではないか。そう考え、私は当社を設立しました。万人の共通言語である「数値」を用いて、義と利の通訳をするためです。データドリブンのサステナビリティ推進と言っても良いでしょう。



社内は企業より研究室に近い雰囲気

当社では、各領域で活躍するアナリストやデータサイエンティストの協力を得て、「ESGテラスト」というSaaS（ソフトウェア・アズ・ア・サービス）の商品化を進めています。これは企業や自治体に関する1000を超える定量・定性のビッグデータを、AIを用いて収集・解析することにより、「義」の量を「SDGsスコア」「ESGスコア」として見える化し、同時に「利」との相関（財務へのインパクト）をクリアにするものです。優しさにモノサシを当てることで優しくなるための道標を示し、また、強さに繋がる優しさとは何なのかを明らかにしていくわけです。

「強く、かつ優しい」世界の到来に貢献するため、強くなりたい人と優しくなりたい人の対立と分断をなくす。これが、私たちの存在意義です。

「強く、かつ優しい」世界の到来に貢献するため、強くなりたい人と優しくなりたい人の対立と分断をなくす。これが、私たちの存在意義です。